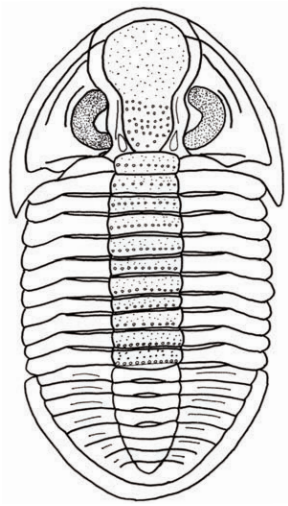
たからものずかん２

いわきの化石Ⅱ

－無脊椎動物・植物編－

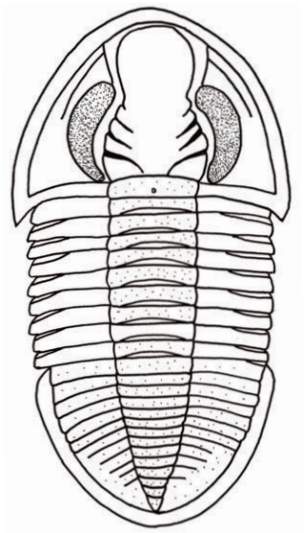
三葉虫
節足動物のなかま

エンドプス ×3.1



エンドプス復元図

ニッポナスピス ×2.8



ニッポナスピス復元図

三葉虫は古生代に大変栄えた動物です。四倉町の高倉山層群から発見される三葉虫は絶滅寸前の古生代末ペルム紀のものです。

2015
公益財団法人いわき市教育文化事業団

いわきの三葉虫時代（2億4,000万年前）

エンドプス ×4.0

身を守るため体をまるめた状態で化石になっている

節足動物のなかま

マーテニア ×2.8

ワンソク類

ディクチオクロスタス ×1.5

ワンソク類

いわき市四倉町高倉山付近には、いわき市で最古の地層高倉山層群が分布しています。この高倉山層群は、古生代最後の時代ペルム紀にできたもので、その当時の海の生物化石や近くにあった島々から流されてきた植物化石が発見されています。このことから三葉虫類、オームガイ類、アンモナイト類、ワンソク類など当時の海ははなやかな生物たちによっていろどられていたことがわかっています。しかし古生代末には多くの生物の大絶滅がおこります。

ワーゲノセラス ×0.30

アンモナイト類

イカ・タコのなかま

アンモナイト生態復元図（イラスト：宗川美貴）

タイノセラス ×0.35

オームガイ類

イカ・タコのなかま

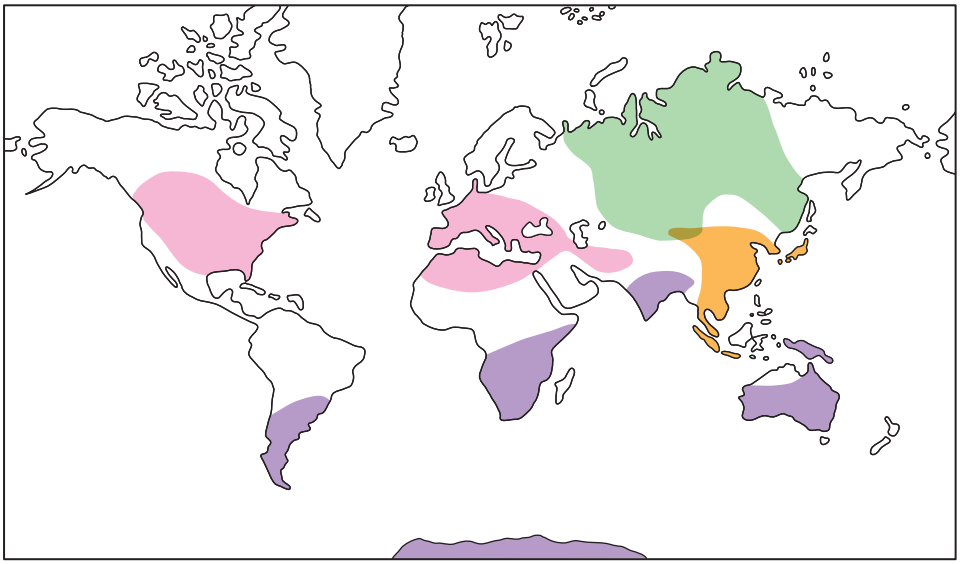
現生オームガイ

いわきの三葉虫時代（2億4,000万年前）

ビエコエプレクトプテリス ×0.76

種子シダ類

復元されたビエコエプレクトプテリス



オウベイ植物群
アンガラ植物群
カタイシア植物群
ゴンドワナ植物群

古生代末のペルム紀の世界は、いくつかの植物群にわかれていました。ヨーロッパ―北アフリカ―北アメリカ中央部のオウベイ植物群、南アフリカ―南アメリカ南部―インド―オーストラリアのゴンドワナ植物群、中国―東南アジアのカタイシア植物群、北ヨーロッパーロシアのアンガラ植物群の４植物群にわかれていました。いわき市と岩手県のペルム紀の地層より発見された種子シダ・ギガントプテリス類から、日本が中国とおなじカタイシア植物群に含まれることがわかりました。このカタイシア植物群は、乾燥した大陸性気候のもとにあったと考えられています。

いわきの恐竜時代（8,900〜8,500万年前）

巨大アンモナイト メソプゾシア（直径 100cm）

イカ・タコのなかま

メソプゾシア生態模型

いわき市石炭・化石館「ほるる」の草野さん（身長155cm）

いわきの恐竜時代（8,900〜8,500万年前）

いわき市の北部には、双葉層群という恐竜時代の終わりごろにできた地層が分布しています。およそ8,900万年前から8,500万年前にできたもので、直径１ｍをこす巨大アンモナイトや異常巻アンモナイトなどがたくさん発見されています。また、近くの陸地から流されてきた植物化石やコハクなども発見されています。

ユウボストリコセラス ×0.71

異常巻アンモナイト

イカ・タコのなかま

コハク ×0.90

樹脂の化石

アラウカリアのみき ×0.21

ナンヨウスギ類

現生のナンヨウスギ

いわきの石炭がつくられた時代（3,400万年前）

アサガイオオノガイ ×0.92

ベッショリュウグウハゴロモガイ ×0.97

アサガイトリガイ ×1

ハリマントリガイ ×1.1

イワキザルガイ ×1.2

スギのなかま ×0.59

白水層群下部には石炭をふくむ石城層があります。この石炭がつくられた時代は温暖でしたが、しだいに寒冷な気候に変わっていきました。ここに掲載した貝類は石城層の上に位置する浅貝層から発見されたもので、寒冷な海にすんでいた種類の貝類です。これらは浅貝動物群と呼ばれています。

イワキゾウの時代（1,900万年前～1,600万年前）

湯長谷層群・白土層群の時代

ナミガイのなかま ×0.62

オウナガイのなかま ×0.66

ツキガイモドキのなかま ×0.66

シラトリガイのなかま ×1.86

トクナガキヌタレガイ ×1.1

ウネヒタチオビ ×1

ヨコヤマビカリヤ ×0.74

キリガイダマシのなかま ×1.8

湯長谷層群と白土層群のできた時代は温暖な気候で、とくに白土層群の時代は、いわき市が熱帯の気候だったようです。上遠野ではマングローブ林やマングローブ沼があり、そこには巻貝のヨコヤマビカリヤや、ワニがすんでいました。

メタセコイア ×0.60

現生のメタセコイア

大原自然貝層の時代（8,000年前～）

フジナミガイ ×0.44

ウバガイ ×0.32

アカガイ ×0.43

チヨノハナガイ ×1.6

ミゾガイ ×1.2

イガイ ×0.70

アカニシ ×0.48

カゴメガイ ×1.9

いわきの化石Ⅱ

化石年表				
6,500万年前	新生代	第四紀	大原自然貝層の時代
		第三紀	イワキゾウの時代
			いわきの石炭の時代
2億2,500万年前	中生代	白亜紀	いわきの恐竜時代
		ジュラ紀	
		三畳紀	
5億7,000万年前	古生代	ペルム紀	いわきの三葉虫時代
		石炭紀	
		デボン紀	
		シルル紀	
		オルドビス紀	
		カンブリア紀	

いわき市小名浜大原には、大原自然貝層と呼ばれる主に縄文海進によってできた砂や泥などの層が厚くつもっています。縄文海進は8,000年前からはじまり6,000年前にピークをむかえたとされています。暖かい海にすむ貝類などが多く見つかって、この海が温暖であったことがわかっています。また、この自然貝層からは縄文土器やアワビをとるための道具のほかに、平安時代の土器なども見つかっています。

◎平成27年9月30日発行
たからものずかん2
いわきの化石Ⅱ
発行 公益財団法人いわき市教育文化事業団（いわき市考古資料館内）
編集
〒972-8326 福島県いわき市常磐藤原町手這50の1
電話 0246-43-0391（代表） fax 0246-43-0395
©2015